

(第3号様式)

学 位 論 文 要 旨

氏 名 仲地 究

論 文 名 COVID-19 による学校閉鎖における子どもたちの心理的・行動的变化の違いについて

学位論文要旨

はじめに

2019年に発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、全世界に蔓延し、公衆衛生上の緊急事態であると宣言され、感染拡大を抑えるために学校閉鎖が行われ、子どもを精神的な危機へと追いやった。日本では、6歳から18歳までの子どもが数ヶ月間、自宅待機により社会的距離を置くことを命じられた。各国で子どもの感染恐怖、交友関係の欠如などのストレス要因への曝露による行動上の問題などが報告され、行動制限下での子どものメンタルヘルスの重要性が示された。日本では、2020年3月3日に小学校、中学校、高等学校の休校が始まり、4月7日に日本政府によって緊急事態が宣言された。長期の休校・隔離が日本の子どもの精神的健康や行動にどのような影響を与えるかは不明であり、どのようなメンタルケアが必要であるのかは重要であると考えられる。これまでにパンデミック時の学校閉鎖・自粛による心理・行動の変化が、発達段階の異なる児童・青年間でどのように異なるかを調べた研究はなく、本研究は、COVID-19による長期学校閉鎖、自粛が、さまざまな発達段階に属する子どもたちに及ぼす影響を調査することを目的に行われた。

方法

2020年4月30日から5月8日までの学校閉鎖期間中にアンケート調査を行い、愛媛県に在住の精神科受診歴のない6歳から18歳の定型発達児の母親を対象とした。学校が休みのため家にいる子どもであるため、対象者へのアクセスが困難であったため、雪だるま式サンプリングを用い研究への参加を募集した。除外基準として、小学校・中学校・高校に通っていない、特別支援級・学校に所属している、アンケートに不備があるものとした。

アンケートには、子どものストレスと COVID-19 の理解に関する質問、行動変化に関する質問などが含まれ、質問は yes/no で回答された。COVID-19 パンデミック時の学校閉鎖に伴う心理的・行動的变化の差異を検討した。子どもは、現在の文部科学省の教育制度を参考に、その発達段階に応じて上記の 4 つのグループに分類し、小学校低学年（1～3 年生／6-9 歳）群 145 名、小学校高学年（4～6 年生／9-12 歳）群 124 名、中学生（7～9 年生／12-15 歳）群 132 名、高校生（10～12 年生／15-18 歳）群 134 名、計 535 名の子どもの母親が対象となった。なお、本研究は、愛媛大学大学院医学系研究科の倫理審査委員会（IRB No.2006014）の承認を得ている。

結果

COVID-19 と学校閉鎖、自粛に関するストレスと子どもの COVID-19 や COVID-19 制限の必要性についての理解度のグループ間比較では、COVID-19 についてストレスを感じている子どもの割合は、4 群間で大きな差はなかったが、小学校低学年では、COVID-19 や COVID-19 制限の必要性についての理解度や遵守の割合が他群に比べ有意に低いことが示された。「友だちや先生に会えない」ことにストレスを感じている子どもの割合は、小学校低学年で有意に低かった。また、子どもの行動に関する変化についてのグループ間比較では、小学校低学年において「泣きやすい」「愚痴をこぼしやすい」「冷静になれない」「親や家族に依存する」といった心理的な問題が多くみられた。家庭で過ごす時間が長い子どもは、小学校低学年で有意に少なく、小学校高学年で有意に多かった。放課後活動への参加は、小学校低学年と高学年では、中学生と高校生に比べ有意に少なかった。小学校低学年・高学年の子どもは、中学生・高校生に比べ、親や家族への依存度が高かった。睡眠パターン（不眠、入眠困難、悪夢）の変化は、中学生・高校生でより多くみられた。

結論

全学年で約 80%の子どもが COVID-19 に対しストレスを感じており、行動上の問題は発達段階によって異なることがわかった。調査時点での小児では成人と比較して COVID-19 の感染率が低く、臨床症状も重篤ではないものの、心理的問題は小児でより深刻であることが示唆された。小学校低学年では病気に対する概念が希薄であり、ウイルスなど病気の原因を理解することは難しいであろうと考えられる。本研究で、中学生・高校生では睡眠パターンに変化を起こすことが示唆されたが、子どもの不十分な睡眠時間は、日中の眠気、不注意、活動量の低下、学業成績の低下などにつながる可能性がある。学校は子どもたちにメンタルヘルスケアを提供する重要な場でもあり、休校中の、特に低学年の子どもたちは、保護者を含む周囲の大人たちによってサポートされる必要がある。休校中だけでなく、再開後も子どもたち一人ひとりの成長段階に応じた心のケアが必要であると結論づけた。

キーワード（3～5）	COVID-19 発達段階 児童・青年期 メンタルヘルスケア
------------	---